

Suzuki  
Hidetoshi

# 目指したのは 家庭と同じ快適トイレ。 答えは「全洋式化」でした。

北海道深川市  
教育委員会  
鈴木英利  
教育長



学校トイレの洋式化はもはや全国的な流れだが、いまだに和式便器を残すか全廃するか議論は活発だ。そんな中、北海道深川市は全小中学校でトイレの洋式化に踏み切った。関係者の反応は？ 予算は？ さまざまな疑問を今回のプロジェクトを主導した深川市の鈴木英利教育長に聞いた。

## 補助制度のおかげで 全洋式化が一気に加速

市で公共下水道整備が始まったのは昭和50年代半ば、およそ30年前になります。現在では9割以上の家庭が水洗トイレを使用できるようになりました。今、小中学校に通っている児童・生徒は生まれたときから洋式トイレがあり、家の中で一番新しい場所は「トイレ」という家庭も少なくありません。そんな子どもたちが小学校に通い始めるとトイレは和式。「使づらい」とトイレを我慢する

子が続出し、困っているという意見が学校やPTA、議会からもあがり、洋式化が急務とされていきました。

ここで一番の問題となったのは予算です。必要性が高いことは、関係者の共通認識でしたが、市の限られた予算では停滞もやむなしとの思いでした。それをクリアできたのは、文部科学省が推進する21世紀の学校にふさわしい教育環境の充実を目指した「スクール・ニューデール」構想の一環として補助がおりたことです。

費用の3分の1を通常の国の補助から、残りの9割を臨時交付金でまかなえることになり、一気に全校洋式化が前進したわけです。

## 6ℓの節水便器で 水の大切さを教えたい

和式を残すか否かの議論はあったものの、家庭と同様の快適なトイレを求める声が多かった

ため、すべてのトイレを洋式便器としました。改修後も和式便器がなくて困るといった声は上がっておりません。

改修で留意したのはエコの側面ですね。6ℓ便器に変えたことで、節水や環境保全につながることを期待しています。

トイレで流す水の量が少なければ、浄化処理されてから河川へ排出される排水の量も減ります。本州と違って家々が点在する本市の農村部では、合併処理浄化槽で汚水を処理しているのですが、この違いは大きいんですよ。改修を機に子どもたちにはぜひ、水の大切さを学んでもらいたいですね。

トイレは子どもの成長を支える大切な場所です。中長期的な目標になりますが、年平均気温7・1度という寒冷地ですから、暖房便座や温水洗浄便座の普及も視野に入れ、子どもたちが学ぶ環境を時代に合わせて整備していきたいと思えます。

